



学校だより



11月号

令和7年10月31日
江戸川区立瑞江小学校

開校105周年のお祝い週間

校長 牧岡 優美子



つい先日まで半袖で過ごしていたのに、このところ朝晩はめっきり涼しくなりました。空気が乾燥し、インフルエンザなどの感染症に罹患する子もいて心配しています。体調に気を付けながらも、「スポーツの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」「読書の秋」を楽しむさわやかな季節に、本校は開校105周年記念のお祝いをします。

本校は、1920年(大正9年)に開校した「瑞江尋常高等小学校」から始まり、「瑞江国民学校」を経て、昭和22年に「瑞江小学校」になりました。今年で105歳になります。当時は児童数1500名を超え、多いときは1700名弱にもなったため、近隣にいくつもの分校ができていったそうです。そのため「瑞江本校」と呼ぶ方もいます。これまでの卒業生は15971名。中には親子3代、4代で本校に通学している家庭もあります。そのため、地域に愛され、育てられた学校で、温かい心と力強い支えを感じています。

さて、以前からお知らせしている通り、11月4日(火)～8日(土)は「開校105周年記念お祝い週間」です。地域の皆さんから寄せられた「開校100周年の時にはコロナ禍で十分なお祝いができなかったので、是非に開校105周年をやってほしい」という想いも受けています。昨年度からPTA本部の皆さんに相談して、お祝いを計画してきました。と言っても、10年ごとの大きな式典ではありませんから、校内でお祝いの全校集会を開催し、地域の学校関係者の方々をご招待することにしました。担当の教員と代表委員が中心になって、これまで丁寧に準備を進めてきました。学校の長年の歩み・伝統や歴史を振り返り、学校を支えてくださる方々への感謝を表すクイズコーナーもあります。学校にかかわる皆さんと共に祝いします。

集会後は、縦割り班のハッピースマイル班活動とお祝い給食、この日は教科書の学習はありません。子どもたちの心に残る「瑞江小学校のお誕生日会」にします。

また、1週間は「周年お祝い給食」としてお祝いメニューが続き、毎日デザートが出るようにしてもらいました。目で、耳で、口で、全身で思い出に残る周年記念になるように、企画を進めています。PTA本部からは記念品もプレゼントしていただくことになりました。

なお、7日(金)と8日(土)の2日間は、周年記念展覧会です。正面玄関の受付から体育館までの通路は、全校児童のお祝い提灯がお出迎えします。体育館は、図工の時間に子どもたちが作成した平面作品、立体作品や、5・6年生が家庭科で作成した力作が展示してあります。是非、ご来校いただきまして、子どもたちの学習の成果を一緒に楽しんでいただけたらと思います。お待ちしております。